

## Society 5.0

東京都立晴海総合高等学校 講師  
(元キャリアカウンセラー)

千葉吉裕

狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会づくりが提案されている。大量生産・大量消費に支えられた工業社会、個人が情報を利用できる量・質が大きく広がった情報社会、時代は次のステージへと進展するというわけだ。

世界を見渡せば、ドイツが「インダストリー4.0」と称して、情報技術を駆使した製造業の効率化を目指す技術革新を進めており、中国は「中国2025」、アメリカは「先進製造パートナーシップ」など、物の生産をインターネット経由で最適化する「第4次産業革命」と言われる戦略が世界で進められている。ただ、中心は「ものづくり」の最適化をめざすものであって、新たな産業の創出にはまだまだ不十分である。

そこで、日本が打ち出したのが、2016年に提案された「超スマート社会」の実現(Society 5.0)である。2017年5月30日、経済産業省は「新産業構造ビジョン」をとりまとめ、Society 5.0実現に向けたロードマップを発表した。製造・生産現場における高度化・効率化はもちろんのこと、ヒトの移動・モノの移動、健康・医療・介護、「新たな街」づくりまで多岐にわたる分野について記されている。

このプランは、持続可能な社会を創造し、豊かな社会の構築をめざしている。世界をリードするこの戦略を実現するためには、人材の育成が不可欠である。2017年3月31日に幼稚園、小学校、中学校の学習指導要領も発表され、教育改革も連動して行われようとしている。今期の学習指導要領の改訂は、未来社会を創造する人材育成を踏まえて策定されている。

大きく変わろうとしている時代を生き抜ける能力の獲得、変化に対応できる態度の育成は欠かせない。この壮大なイノベーションを推進する情熱と才能を開花することも重要である。激動の中では不確実性も高まるであろう。タフな精神力、辛抱強さも備えなくてはなるまい。また、この改革が進めば、世界からも優秀な才能を持った若者が今以上に多く集まる一方で、日本の技術でグローバルな課題を解決するため、世界に飛び出すことにもなる。となれば、国内においても国外においても、グローバルに活躍することが期待され、そのためには、誰とでも交渉できるネゴシエーション力を備えた語学力を持たなければなるまい。今、学校現場で広がりを見せているアクティブラーニングも、日本と異質な文化の中で交渉できるようになることを理想

としていると考えられる。

Society 5.0では「つながり」がキーワードになる。「もの」と「もの」、「ヒト」と「機械やシステム」、「企業」と「企業」、「生産」と「消費」、「リアル」と「デジタル」というように、最先端の科学技術を用いた様々つながりから新たな付加価値を創出しようという試みだ。つながるためには、「なぜ、つながる必要があるのか」「つながると、何が得られるのか、また、つながると、解決できるのか」「どのように、つながればよいのか」「つながるためには何が必要か」など全体を俯瞰しながらマネジメントする力も必要になってくる。

つながる力、俯瞰する力を養うためには、教室の中で、静かに話を聴くだけの授業ではこの力は身につくまい。教室を出て、自然や社会の中で、様々な体験をし、その体験を通して、自分や自分を取り巻く環境を理解し、問題を発見し、異文化や異年齢の人との交流を通して、他者理解の力を高め、相手が感じていることを感じる手がでさる共感する力を育むことが大切だ。

新しい時代を生きるための知識や技能を備え、変化する社会や世界を理解するための思考力、新しい時代を生きるための実践的な力の養成が学校現場では急務になっている。